

<国土・交通計画系分野>

この分野には全5つの研究室があります！

●表示の研究室は紹介文があるよ！

- 交通まちづくり研究室
- 地域交通研究室
- 都市地域計画研究室
- 行動環境関係学
- 鉄道・交通研究室

見方

- ①教員の名前
- ②研究室の紹介文
- ③配属学生の志望動機や研究テーマ

交通まちづくり研究室

① 本田 豊 先生

② 交通まちづくりは、「公共交通の活性化」や「商店街の活性化」などを目標に、交通政策と都市政策、交通計画と都市計画が連携・融合したまちづくりを行う取り組みです。

③ 交通まちづくり研究室では、持続可能な交通まちづくりを実践するための交通政策・交通計画、市民協働、都市・地域計画、その他建設行政全般に関わる研究を進めています。

- ・既存の交通インフラの活用方法について様々な視点から学んでいきたいと思い、交通まちづくり研究室を希望しました。
- ・交通まちづくりを通じて、交通の利便性を上げると市民の生活にはどのような影響があるのかを知りたいと思い、交通まちづくり研究室を希望しました。
- ・より多様な機能が求められる道路についてより深く学び、魅力的で住民の生活の質を向上する道路空間の活性化に貢献できる研究をしたいと考え、交通まちづくり研究室を希望しました。

地域交通研究室

① 猪井 博登 先生

② 生活を支える交通について研究をしています。どのような交通を提供すると利用してもらえるのか、交通が確保されることにより、人々の生活がどのように変化をするかを研究しています。一方、交通を提供するのにどの程度の費用が掛かるのかを研究しています。今年度の卒論は、大型免許を持つ人にアンケート調査を行い、どのような条件（給料、雇用条件）であれば、バス運転手になってくれるかを検証します。特に、介護離職や保育のための離職せざるを得ない人を引き留めることができる施策を検証しています。

さらに、今年度の卒論では、2021年1月の大雪を取り上げ、大雪災害時に自動車の利用をどのように減らせるのかを検証します。自動車の利用という行動に至るまでに、認知、判断の過程があるとして、認知では自動車を利用することが本当に大雪による交通障害に影響するのかを検証します。判断では、自動車利用を控えてくれる施策を提案し、その施策へ反応を把握しようと考えています。

③ ・現在どのような研究をされているのか；バス事業における担い手のすそ野の拡大を図るために、担い手の職業選択行動を調査しています。
ここの研究室を選んだ理由；公共交通機関の利便性を充実させることによる都市に及ぼす影響と住民の生活行動の変化を学びたいと考えたからです。
・卒業研究としては、令和3年1月に発生した大雪を対象に、大雪災害時に自動車交通がどのような影響を受けるのかを分析しています。自動車交通に関する研究をしたいと思い、研究室に入りましたが、指導経験が豊富な先生から研究テーマに限らず様々な知識や考え方が学べる環境だと感じています。

都市地域計画研究室

① 中川 大 先生

② 都市の魅力や活力を高めるための都市政策や交通政策に関する研究を行っています。特に、地方都市における都市問題や交通問題を解決することを目指した実践的な研究を、様々なデータを収集・分析することによって行っています。また、海外の都市や交通にも目を向けながらコンパクトシティ政策や公共交通の活性化政策など具体的な政策の効果を定量的に把握する分析なども行っています。

③ -研究テーマ-

- ・タクトダイヤに関する研究
- ・立地適正化計画に関する研究
- ・地方鉄道の輸送密度と運行本数、駅勢圏人口の経年変化に関する研究